

What's new in Inspire[®]X 2018.0



新しく追加された製品:

アキュイティOS2搭載のシナジープラットフォームを使用した革新的な新製品ラインナップです。Muse iQ, Halo iQ, OtoLens シナジー iQ シリーズが、今までに経験したことがないような「きこえ」の世界を体感させます。

ヘイロー iQ (Halo iQ)

Halo iQはTruLink 2.4GHzワイヤレステクノロジーを搭載した、スターキーの次世代スマートフォン対応補聴器です。

- ✓ 耳かけ型
 - RIC 13
 - RIC 312
- ✓ テクノロジークラス
 - i2400
 - i2000
 - i1600
 - i1200
 - i1000



Halo iQ

ミューズ iQ (Muse iQ)

- ✓ 耳かけ型
 - BTE 13
 - mini BTE 312
 - RIC 312
 - microRIC 312
- ✓ テクノロジークラス
 - 2400
 - 2000
 - 1600
 - 1200
 - 1000
- ✓ 耳あな型
 - ITE
 - ITC
 - CIC
 - IIC



Muse iQ

オトレンズ・シナジーiQ (OtoLens iQ)

- ✓ 耳あな型
 - IIC
- ✓ テクノロジークラス
 - 2400
 - 2000
 - 1600



OtoLens iQ
[Synergy]

製品の新機能

アキュイティイマーゼーション指向性 (1200クラスまでの指向性器種に対応)

指向性のSN比の大きな変化がない状況下において、本来の耳が行っている耳介での自然な指向性パターンを再現します。補聴器ユーザーは、多くの環境でより自然な空間認識が可能になり、聞き取りの難しい、騒がしい環境でも立体音響感覚で方向感覚を得ることができます。

アキュイティイマーゼーション (CIC, IIC製品上位3クラスのみ)

耳介から集められた自然な音を拾うために理想的な位置にあるマイクロホンを利用して、空間認識のために必要な手がかりを補聴器のアキュイティイマーゼーション専用アルゴリズムにインプットし、ユーザーに臨場感や世界と繋がっている感覚を与えます。

アキュイティクワイエット (全器種対応)

背景雑音大きい状況下でも、アキュイティボイスの機能と合わせて広い入力レベルで補聴器の回路ノイズを低減し、高品質なきこえを実現します。

新たなアクセサリーの追加：TruLink

トゥルーリンクリモコン

Halo iQと互換性のある手頃で操作が簡単なリモコンです。

✓ 概要

- ベーシック/アドバンスモデルの2種類
- 通常使用で3年間耐用
- 充電不要



InspireX 2018.0 の変更点

iQ製品に対応した新たな追加点

アキュイティイマーゼーション指向性 (イマーゼーション指向性)：

補聴器が無指向性の状態のとき、高域の指向性周波数レスポンスにより、自然な耳介効果を再現します。この機能は、大部分のメモリーでデフォルトに設定されていますが、環境管理画面の指向性詳細で有効/無効に変更できます。[図1]



[図 1]

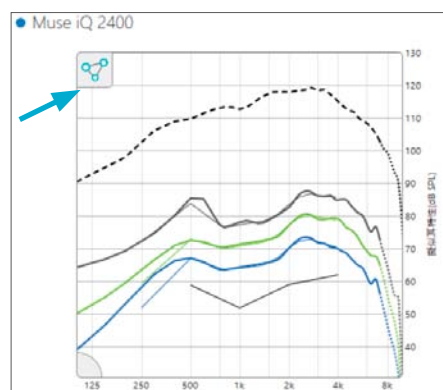
アキュイティイマージョン（空間ヒアリング）：

Muse iQ CICやIIC、オトレンズシナジーiQ の新しい機能であり、e-STAT AIフィッティング処方式によって4KHz以上の周波数情報をユーザーの可聴域内に変換させることで空間認識に必要な手掛かりをユーザーに与えます。

この機能は、Inspire Xの環境管理画面に位置し、軽度から中等度難聴の方にデフォルトで設定されます。（有効に設定すると、アイコンがフィッティンググラフの左上の角に表示されます。） [図 2, 3]

Muse iQ 2400		1	2	3	4
環境管理					
ボイス強調		3	3	3	3
静寂		3	3	3	3
風		3	3	4	3
機械雑音		3	3	3	3
BGM強調	強さ	3	Off	Off	Off
空間ヒアリング		On	On	On	N/A

[図 2]



[図 3]

お知らせ音：

スピーチお知らせ音：

すべてのiQ製品で、デフォルトに設定されているメモリーを環境メモリー名でお知らせできるようになりました（例：屋外専用メモリーに切り換えると「屋外」と音声でお知らせ）。ユーザーの要望に合わせて、お知らせ音をリスト上から異なる名称（例：「ゴルフ」）、番号（例：「1（イチ）」など）、チャ임などのトーン音に変更することができます。メモリーバーでは、吹き出しアイコンの切替でメモリー毎のお知らせ音を表示することができます。 [図 4]



[図 4]

お知らせ音スキーム：

Muse iQとオトレンズシナジーiQでは、ユーザーの要望に応じて、ボリュームコントロールを2種類のお知らせ音パターンから選択することができます。

[図 5]



[図 5]

スマート VC（ボリュームコントロール）：

Muse iQとオトレンズシナジーiQでは、リザーブゲインを単一のゲインチャンネルで制限するのではなく、ユーザーに4dBまで追加でリザーブゲインを与えます。

アクセサリー：

TruLinkリモコン：Halo iQでは、左側ナビゲーションバーにアクセサリーの項目が追加されます。アクセサリー画面でTruLinkリモコンを有効に設定します。有効に設定すると、デバイスガイドにもリモコンの使用が記載されます。 [図 6]



[図 6]

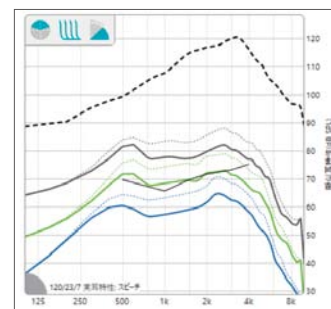
Noah FastData機能：

選択 ➡ 一般に“Noahにセッションを保存するときにFastData を含める”の選択肢が追加されました。有効（初期設定では設定されていません）を選択すると、Inspireのセッションが保存される時は常に、フィッティング レポートの最初のページを含め、各耳側のPDF（.pdf）ファイルがNoahに保存されます。Noahをクリックすると、PDFファイルがフィッティングセッションの左側に表示され、Inspireの起動が必要ありません。Noah 4.7 以上でInspireを立ち上げた時のみ、この選択肢は使用可能になります。

Inspireソフトウェアの変更点

グラフアイコン：

フィッティンググラフの左上のグラフアイコンに調整画面へのハイパーリンクを含むようになりました。(固定指向性・耳鳴治療音・自動経験管理) [図 7]



[図 7]

耳鳴り治療音時の マイク Off：

耳鳴り治療音機能が有効のときにメモリーごとに補聴器のマイクをオフにする新しい機能。
[マイク On]の横にあるチェックボックスのチェックを外すことで、マイクを無効にできます。
(初期設定は有効) [図 8]

【注意】

耳鳴り治療音機能の使用または調整については、耳鼻科での医師によってのみ有効にできます。



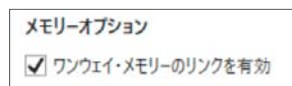
[図 8]

ワンウェイ・メモリーのリンク：

設定されているメモリーをメモリー1(*標準)に自動的にリンクさせ、メモリー1(*標準)の周波数特性の調整内容をリンクされた他のメモリーにも適用させます。ただし、周波数特性以外の設定変更などは適用されません。また、音楽ストリーミング Stream Boost はリンクしません。ツールバーの選択・一般から有効にする必要があります。
(初期設定は無効)。[図 9, 10]



[図 9]



[図 10]

印刷：

データログ: お客様のご要望でデータログ記録を印刷してお渡することができるようになりました。 [図 11]

オーディオグラム印刷: 顧客データに保存された顧客のオーディオグラムの印刷が可能になりました。 [図 12]



[図 11]



[図 12]

NOAHlink ワイヤレスプログラマー：

Inspire X 2018.0ではHalo iQ, Halo2, Halo などの2.4 GHz製品がNOAHlinkワイヤレスプログラマーでも調整可能となりました。

Windows XP ・ Vista サポート終了：

Inspire X 2018.0はWindows XPおよびWindows Vistaにはインストールができません。